

字幕と吹き替えの比較

梁瀬みき

1. はじめに

外国で制作された映画を鑑賞する際、作品を楽しむ大きな手助けとなるのが日本語字幕、もしくは日本語吹き替えである。昨今ではDVD等のメディアの普及により観客は字幕でみるか吹き替えでみるかを手軽に選択できるようになってきたし、気分によって“今日は字幕”、“今回は吹き替え”と、1つの作品を両方の見方で楽しむことも簡単にできる。そうすると同じ作品であっても字幕翻訳と吹き替え翻訳では言い回しやストーリーの解釈が違う場面があるということに気付く。

本稿では、読む情報である字幕と聞く情報である吹き替えにそれぞれどのような特徴・違いがあるのかということ进行调查する。また、原文から日本語へ翻訳した際に生じた省略や補完などの内容変化についてもみていくことで、字幕でみるか吹き替えでみるかによって作品から得る情報量に違いがあるかどうかともみていく。会話部分と歌部分の双方について、調査・考察を行う。

2. 調査対象情報

調査対象は、以下の8作品である。(下線は制作国)

- ブラッド・バード監督『レミーのおいしいレストラン』(2007 米日公開、ウォルト・ディズニー・スタジオ配給)(利用箇所はDVDのトラック1)
- フランシス・フォード・コッポラ監督『ゴッド・ファーザー』(1972 米日公開、パラマウント映画配給)(利用箇所はDVDのトラック1 ※吹き替えデータは2001年のDVD版(以下“旧”)と2008年のコッポラ・リストレーション版(以下“新”)字幕翻訳:菊地浩司、吹き替え翻訳:佐藤一公、吹き替え演出:伊達康将)
- マイケル・マン監督『コラテラル』(2004 米日公開、パラマウント映画配給)(利用箇所はDVDのトラック1)字幕翻訳:戸田奈津子、吹き替え翻訳:岸田

恵子

- ・デヴィッド・フランケル監督『ブラダを着た悪魔』(2006 米日公開、20 世紀 FOX 配給) (利用箇所は DVD のトラック 1～2) 字幕翻訳: 松浦美奈、吹き替え翻訳: 松田順子
- ・ヴィクター・フレミング監督『オズの魔法使い』(1939 米加公開・1954 日公開、メトロ・ゴールドウィン・メイヤー配給) (利用箇所は DVD のトラック 1) 字幕翻訳: 石原千麻、吹き替え翻訳: 石原千麻
- ・デヴィッド・フィンチャー監督『ベンジャミン・バトン』(2008 米公開・2009 日公開、ワーナー・ブラザーズ配給) (利用箇所は DVD のトラック 1) 字幕翻訳: アンゼたかし、吹き替え翻訳: アンゼたかし
- ・ロバート・ワイズ監督『サウンドオブミュージック』(1965 米日公開、20 世紀フォックス配給) (会話部分の利用箇所は DVD のトラック 5) 字幕翻訳: 森みさ、吹き替え翻訳: 森みさ、吹き替え内歌翻訳: もりちよこ (“ドレミの歌”のみベギー葉山)
- ・ティム・バートン監督『チャーリーとチョコレート工場』(2005 米加英豪日公開、ワーナー・ブラザーズ配給) (会話部分の利用箇所は DVD のトラック 14) 字幕翻訳: 瀧の島ルナ、吹き替え翻訳: 藤沢睦実

色々なタイプの作品を取り上げたいと考え、アニメーション作品である『レミーのおいしいレストラン』を、実写作品として『ゴッド・ファーザー』、『コラテラル』、『ブラダを着た悪魔』を調査対象として選択した。また、字幕と吹き替えとで翻訳者が違うということが言葉の違いに影響を与えていることが考えられるため、字幕と吹き替えを同一人物が翻訳している『オズの魔法使い』と『ベンジャミン・バトン』も調査対象とした。『サウンドオブミュージック』および『チャーリーとチョコレート工場』は作中に歌が複数登場し、その歌詞も字幕・吹き替え共に日本語翻訳されていたことから調査対象として選択した。

3. 字幕表記と吹き替え書き起こしの文字数と音節数における比較

字幕翻訳を行ったことのある者の著作には、

平均的な日本人は映画館で意識を集中した状態でスクリーンを見ているとき、一秒三文字から四文字なら無理なく読みとれて、画面にも意識を配る余裕がある (戸田, 1997)

スーパー字幕は一行十字、二行までということにきまっている（清水, 1992）
といった、画面のスペース上の理由と、理解するのに音声よりも文字のほうが時間がかかる、といった理由から字幕の文字数には制約がある、という発言がよく登場する。

そこで、まずはこの文字数の差というものについて実際に比較してみることにする。その際、字幕は元々文字での表記であるため、単純にそれを数えるが、吹き替えは音声であるため筆者が聞いた台詞を漢字・仮名混じりの形にした物を利用する。この文字化における漢字の使い方や記号の入れ方は筆者次第となり、翻訳者の意図したもの（実際の脚本）とずれが生じている可能性がある。また、そもそも吹き替えという音声での言葉においては漢字や記号といったものは意味が無い。そこで、文字起こししたものの同士の比較も行った後で、記号や表記に左右されない音節数での比較も行う。

3-1-1. 文字数比較～会話部分～

本章では、同シーンの字幕と吹き替えの台詞の文字数を数えてどの程度字数に違いがあるのかをみる。その際、資料の書き起こしは以下のルールのもとで行った。

- 字幕は、実際に画面に表示されている通りに書き起こした物を利用し、“?” や “・” といった記号も、一文字として数に入れる。
- 吹き替えを文字にする際、句読点は挿入しない。（どこに入れるかで判断にぶれが生じると、字幕にあまり句読点が使われていないため。）
- 吹き替えの書き起こしでは“?” も使用しない。（字幕では使われているが、吹き替えを自分で書き起こす際に“?” を付けるかどうかの判断基準が曖昧となるため。）
- 字幕と吹き替えどちらか片方でしか日本語化されていない台詞は後の内容比較の際には調査対象とするが、文字数・音節数の調査からは除外する。（文字数という観点から調査する際には厳密に同じ原文を翻訳したものをみるべきだと考えたため。）

表 1. 字幕表記と吹き替え書き起こしでの文字数比較～会話部分～

	字幕	吹き替え		字幕 + 吹き替え	
		旧	新	旧	新
レミーのおいしいレストラン	208 (40.9%)	300 (59.0%)		508 (100%)	
ゴッド・ファーザー	701 (新 39.0%/ 旧 39.0%)	旧 1,095 (60.9%)	新 1,092 (60.9%)	旧 1,796 (100%)	新 1,793 (100%)
コラテラル	1,236 (41.1%)	1,740 (58.8%)		3,004 (100%)	
プラダを着た悪魔	238 (43.1%)	313 (56.8%)		551 (100%)	
オズの魔法使い	697 (40.6%)	1,013 (59.3%)		1,710 (100%)	
ベンジャミン・バトン	1,001 (44.9%)	1,224 (55.0%)		2,225 (100%)	
サウンドオブミュージック	240 (40.1%)	358 (59.8%)		598 (100%)	
チャーリーとチョコレート工場	337 (40.7%)	491 (59.2%)		828 (100%)	

※百分率は小数点二位以下切り捨て

全ての作品で吹き替えの方が字幕よりも文字数が多い。それぞれの文字数の後ろに括弧書きで記したのは、字幕の文字数と吹き替えの文字数を足した物を 100% とした時のそれぞれの割合であるが、これが字幕では 39.0～44.9% の間、吹き替えは 55.0～60.9% の間に収まっており、字幕：吹き替え = 4：6 程度の文字率である、という結果が浮かび上がった。

3-1-2. 文字数比較～劇中歌部分～

作中に登場人物が歌うシーンの有る映画というのは多く存在するが、これらの作品の歌唱シーンは日本語字幕があっても音声は日本語化されていないことも多い。吹き替えてみても、歌のシーンでは制作国の言語がそのまま流れるのである。こういったところから、歌詞の翻訳が特殊であるということが伺える。メロディーに乗せて歌えなくてはならない吹き替え翻訳が難しいということや、原曲で聞いて本来の雰囲気を感じて欲しい、といった理由があると考えられる。

今回調査対象とした中の『サウンドオブミュージック』と『チャーリーとチョコレート工場』は作中に複数の歌が登場するミュージカル映画であり、この二作品は DVD において歌も日本語吹き替え化されている。そこで、この二作品を用いて歌の部分の特徴をみていく。尚、調査対象とした曲にはタイトルが映画名や登場人物と同じものがあり、混乱を防ぐため曲のタイトルを表す場合には曲名を“♪”で挟んで表記する。

表 2. 字幕表記と吹き替え書き起こしでの文字数比較～劇中歌部分～

	字幕	吹き替え	字幕 + 吹き替え	原文の文字数
♪サウンドオブ ミュージック♪	176 (51.9%)	163 (48.0%)	339 (100%)	494
♪マリア♪	472 (49.7%)	476 (50.2%)	948 (100%)	1,391
♪自信を持って♪	416 (53.3%)	364 (46.6%)	780 (100%)	1,282
♪もうすぐ17才♪	314 (47.8%)	342 (52.1%)	656 (100%)	748
♪私のお気に入り♪	370 (43.6%)	477 (56.3%)	847 (100%)	1,187
♪ドレミの歌♪	162 (51.9%)	150 (48.0%)	312 (100%)	415
♪エーデルワイス♪	78 (54.9%)	64 (45.0%)	142 (100%)	137
♪さようなら、 おやすみなさい♪	204 (49.8%)	205 (50.1%)	409 (100%)	630
♪ウィリー・ウォンカ♪	137 (43.4%)	178 (56.5%)	315 (100%)	409
♪オーガスタス・ グループ♪	157 (49.2%)	162 (50.7%)	319 (100%)	469
♪バイオレット・ ボレガード♪	151 (46.8%)	171 (53.1%)	322 (100%)	528
♪ペルーカ・ソルト♪	209 (55.0%)	171 (45.0%)	380 (100%)	556
♪マイク・ティービー♪	169 (46.6%)	193 (53.3%)	362 (100%)	768

※百分率は小数点二位以下切り捨て

会話部分同様のパーセンテージを求めたところ、会話部分とは異なる傾向が現れた。会話部分では全作品で字幕の方が少ない文字数となっていたが、今回調査した歌 13 曲中、5 曲は吹き替えよりも字幕の方が、文字数が多いという結果となった。

また、パーセンテージは字幕が 43.4 ～ 55.0% の間、吹き替えが 45.0 ～ 56.5% の間となっており、全体的に、字幕と吹き替えの文字数に突出した違いが無いことがわかる。

会話部分の割合が字幕：吹き替え = 4：6 程度であったのに対し、歌がこのような結果となったのは歌の場合は吹き替えの文字数に制限がかかるからだと考えられる。字幕では会話部分と歌部分の翻訳の仕方に特に違いは見受けられなかったが、吹き替えはメロディーに合わせて歌うことのできる歌詞に翻訳する必要があり、会話部分のように文字数を気にしないというわけにはいかない。表 2 の結果はこのことを証明していると言える。

3-2-1. 音節数比較～会話部分～

上で行った文字数の比較では、字幕はともかく、自分で書き起こしを行った吹き替えは表記等における信頼性が低い。そこで文字表記に左右されない音節数について調査し前章のデータを裏付けるとともに音節数でみることによってわかる特徴も無いか探りたい。

音節数のカウントは以下のルールの方で行った。

- 字幕・吹き替えの日本語翻訳部分に関しては金田一（1967）内で紹介されている、音韻論的音節の服部四郎の促音・長音・撥音・二重母音は前の音と合わせて一音節として数えるという説を基本とした。ただし二重母音に関しては判断に迷うものが多かったため、本稿では全て別の音節としてカウントした。
- 翻訳に登場する外来語・外国語の識別は、字幕ではカタカナ表記のもの全てを外来語として扱い、アルファベットを用いて表記されているものは外国語として扱うという基準を設けた。吹き替え内では、単体でその単語が現れていて、それが日本で使っても違和感無く受け入れられるであろうものは外来語として日本語と同じカウント方法をとった。逆に、一単語でも日本語の中で使うには違和感があり外国語のニュアンスが感じられるもの、二単語以上連続して英単語が用いられていて、英文法の性質が残っているものは外国語として音節数をカウントした（ただし、♪バイオレット・ボーレガード♪の吹き替え内にある“チューインオールデイ”は“chewing all day”を省略したもので、歌い方も日本語的であることから日本語と同様のカウント方法をとった）。
- 原語および翻訳内での外国語の音節数は『ジーニアス英和辞典 第4版』（大修館書店）をもとにカウントした。辞書に載っていない人名が数種あり、これは聴いた感覚でカウントした。

表 3. 字幕表記と吹き替え書き起こしでの音節数比較～会話部分～

	字幕	吹き替え		字幕 + 吹き替え	
レミーの美味しいレストラン	213 (39.0%)	333 (60.9%)		546 (100%)	
ゴッド・ファーザー	829 (旧 40.9%/ 新 40.7%)	旧 1,196 (59.0%)	新 1,203 (59.2%)	旧 2,025 (100%)	新 2,032 (100%)
コラテラル	1,308 (42.5%)	1,765 (57.4%)		3,073 (100%)	
ブラダを着た悪魔	239 (42.4%)	324 (57.5%)		563 (100%)	
オズの魔法使い	689 (40.4%)	1,013 (59.5%)		1,702 (100%)	
ベンジャミン・バトン	1,022 (44.3%)	1,284 (55.6%)		2,306 (100%)	
サウンドオブミュージック	281 (40.9%)	406 (59.0%)		687 (100%)	
チャーリーとチョコレート工場	343 (41.0%)	493 (58.9%)		836 (100%)	

※百分率は小数点二位以下切り捨て

表 1 の結果と見比べても字幕：吹き替えの割合に大きな違いはなく、会話部分では字幕：吹き替え = 4 : 6 程度の音節数であると結論づけて良いようである。

単純な文字数カウントと比べて今回の音節数のカウントでは、

- ①記号をカウント対象にしなくなったことによる数の減少（主に字幕。吹き替えは固有名詞につく“・”程度で極微量）
- ②拗音、促音、長音、撥音が前音と合わせて一音節となることによる数の減少（字幕・吹き替え双方）
- ③漢字、数字表記で一文字だったものが複数音節になることによる数の増加（字幕・吹き替え双方）

が起こっている。②③は字幕と吹き替えで条件は変わらずに生じているが、書き起こし時の都合で吹き替えの書き起こしには“?”や句読点をつけていないため①はほとんど起こらない。このため、表 1 と表 3 を比較すると表 3 の方が字幕の割合が減少するのではないかと予想したのだが、実際には 4 作品 5 資料では予想に反し字幕が上がり吹き替えが下がる、という結果となった。音節数にしたことで字幕の割合が増えたことの一因として、上記③、つまり漢字や数字の割合が字幕では高いのではないかということも推測される。

3-2-2. 音節数比較～劇中歌部分～

本章では劇中歌部分の音節数をみていく。その際、

英語の歌では、1 つ 1 つの音符の長さに関係なく、音節ごとに音符が付与されるのが基本である。つまり、次の楽譜からもわかるように、1 音節 = 1 音符と

いう原則に従って歌詞にメロディーが付けられている（窪蘭・本間，2010）
 とのことから、歌詞の翻訳においては、メロディーを考慮せずに意味を示せば良い
 字幕よりも、原曲と同様のメロディーに乗せて歌うことができるように考えて翻訳
 された吹き替えの音節数は原文の音節数と近くなるのではないかと予想し、原文の
 音節数も調査し併記する。

表 4. 字幕表記と吹き替え書き起こしでの音節数比較～劇中歌部分～

	字幕	原文 との差	吹き替え	原文 との差	字幕 + 吹き替え	原文の 音節数
♪サウンドオブ ミュージック♪	242 (62.6%)	+99	144 (37.3%)	+1	386 (100%)	143
♪マリア♪	543 (52.9%)	+91	482 (47.0%)	+30	1025 (100%)	452
♪自信を持って♪	495 (55.2%)	+105	401 (44.7%)	+11	896 (100%)	390
♪もうすぐ17才♪	369 (54.8%)	+103	304 (45.1%)	+38	673 (100%)	266
♪私のお気に入り♪	401 (49.3%)	+70	411 (50.6%)	+80	812 (100%)	331
♪ドレミの歌♪	154 (52.7%)	+22	138 (47.2%)	+6	292 (100%)	132
♪エーデルワイス♪	95 (58.2%)	+35	68 (41.7%)	+8	163 (100%)	60
♪さよなら、 おやすみなさい♪	208 (51.4%)	+19	196 (48.5%)	+7	404 (100%)	189
♪ウィリー・ ウォンカ♪	123 (47.4%)	-15	136 (52.5%)	-2	259 (100%)	138
♪オーガスタス・ グループ♪	159 (49.3%)	+25	163 (50.6%)	+29	322 (100%)	134
♪バイオレット・ ボーレガード♪	154 (50.4%)	0	151 (49.5%)	-3	305 (100%)	154
♪ベルーカ・ソルト♪	221 (53.6%)	+55	191 (46.3%)	+25	412 (100%)	166
♪マイク・ティービー♪	187 (46.4%)	-56	216 (53.5%)	-27	403 (100%)	243
差の絶対値合計	695 (平均 53.4)		267 (平均 20.5)			

※百分率は小数点二位以下切り捨て

表 4 の結果から、当初の予想通り字幕と吹き替えでは吹き替えの音節数の方が原
 文のものとなっていて、近くなっていることがわかる。表 2 で、文字数の面からは字幕と吹き替
 えに大きな違いがみられなかったのに対し、音節数という観点に変えたことで原文
 と日本語という違う言語間でも比較を行うことができ、このような結果が現れたこ
 とは大変興味深い。

全13曲中10曲は字幕・吹き替え共に原曲よりも翻訳の音節数の方が多くなって
いた。

上の表4と、表2を見比べると、字幕の場合ほとんどの曲で文字数の時よりも音
節数の方が多い。減っているのは♪ドレミの歌♪と♪ウィリー・ウォンカ♪のみ
で、残りの11曲は数が増加している。♪ドレミの歌♪には英単語や記号が他の曲
と比べて多いことが、♪ウィリー・ウォンカ♪では拗音が多い、記号が使われてい
ることが音節数での数の減少に繋がっているのではないと思われる。

減少した曲が2曲しかなかった字幕に対し、吹き替えでは7曲で減少、残りの6
曲は増加、という結果であった。減少した作品のうちの5曲の日本語吹き替えには
英単語や英文が含まれており、これが音節数にした際の数の減少の一因になってい
ると思われる。

4. 意味内容比較～会話部分～

本章では、実際に書き起こした字幕と吹き替えの会話文を読み比べてその相違を
みていく。

調査資料全ての比較を行うには時間がかかりすぎる為、本調査では調査作品・歌
ごとに数発話ずつ取り出し、その発話の字幕・吹き替え・原文を細かく区切り、分
析を行った。その際の原文は、原則として英語字幕モードで表示されるものを書き
起こして利用した。

翻訳形態は、直訳・意識・省略・追加・変化の5種類に大別できる。例を表5に
掲げる。5分類の中をさらに細分類して考察を行った。

表5. 意味内容比較、分析例

“字：渋滞に突っ込むわ” “吹：110だと大学のそばが渋滞でしょ” “原：The 110 turns into a parking lot around USC.”						
原文	字幕	形態	増減	吹き替え	形態	増減
The 110		省略	-	110だと	直訳	=
turns into	突っ込むわ	直訳	=	でしょ	意識	-
a parking lot	渋滞に	意識	=	渋滞	意識	=
around USC.		省略	-	大学のそばが	直訳	=

会話部分を分類した翻訳形態の出現数は下記の通りであった。

会話部分字幕で行った分類まとめ

- 直訳 56 (37.5%)
 - 未分類：28 動詞具体化：2 説明：1 単語先取り：1 品詞変更：1
 - 上位語化：1 下位語化：1 意思明瞭化：1 表現一般化：2 単位変更：1
 - 比喩：1
- 省略 45 (30.2%)
 - 未分類：41 例：5
- 追加 5 (3.3%)
 - 未分類：2 補完：1 修飾語：1 意思明瞭化：1
- 変化 3 (2.0%)
 - 未分類：2 説明：1

全 149 件 (100%)

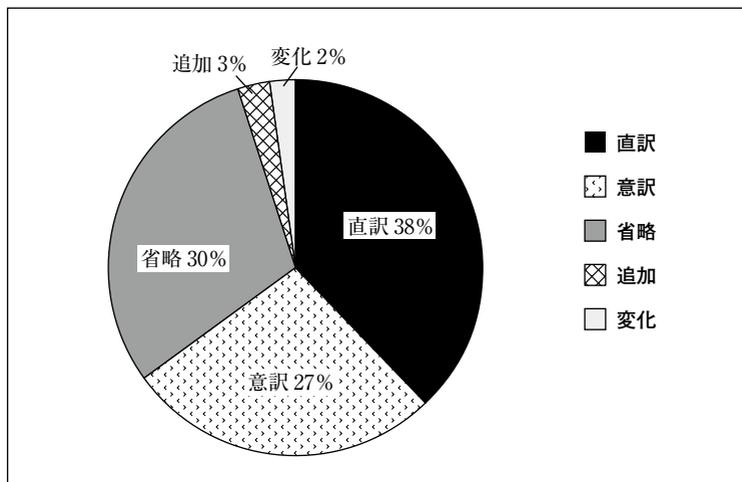


図 1. 会話部分字幕の分類

会話部分吹き替えで行った分類まとめ

- 直訳 110 (60.7%)
- 意識 37 (20.4%)

未分類：24 比喩：1 動詞具体化：1 単語先取り：1 補足追加：2
 上位語化：1 下位語化：1 意思明瞭化：1 意図明示化：2 表現一般化：2
 抽象化：1

• 省略 17 (9.3%)

未分類：15 例：2

• 追加 15 (8.2%)

未分類：3 文整え：5 補完：4 例：2 修飾語：1

• 変化 2 (1.1%)

未分類：1 説明：1

全 181 件 (100%)

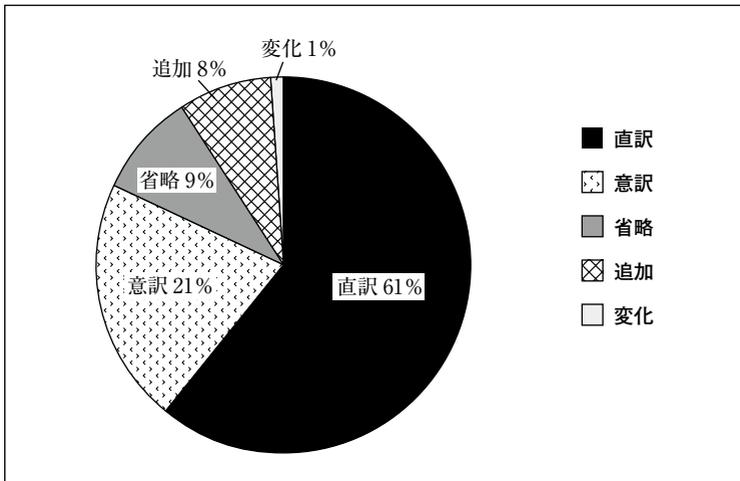


図 2. 会話部分吹き替えの分類

字幕・吹き替え共に最も多かったのは直訳であり、どちらの翻訳でも正確に訳そうとしていることが伺える。

特に吹き替えでは、直訳は二番目に多かった意識の3倍近い値となっており、正確さの度合いが高いと言える。一位の直訳、二位の意識の割合を合計すると81.1%となり、吹き替えでは情報量を変化させずに翻訳しているものが多いことがわかる。

字幕では一番多かった直訳、二番目の省略、三番目の意識の割合の差がさほど多くないという結果となった。吹き替えのデータと比較すると直訳の割合が低く、逆

に省略の割合が高くなっていることがわかる。また、若干では有るが意識の割合も字幕の方が高い。これらのことから、やはり字幕では情報の減少が吹き替えよりも多く起こっていることが結論づけられる。

追加、変化に分類された例が字幕・吹き替え双方にあった。字幕では追加5件、変化3件と出現数がかなり少なかったのだが、吹き替えでは追加15件、変化2件と追加の数が多かった。吹き替えでは、情報の減少が少ないだけでなく、増加も字幕以上に生じているという結果になった。

上でまとめた翻訳形態以外に見られた特徴としては、

- 字幕では体言止めや言い差しが多い。
- 吹き替えよりも字幕の方が短文であることが多い。
- 吹き替えでは外来語で表現している単語を、字幕では日本語にしている例は複数見受けられたが、その逆は今回の調査対象には無かった。
- 吹き替えにおいて口論の箇所では文字数が多くなるようである。
- 字幕では読み上げると違和感を感じるような言葉でも許容される。

といったものがあった。

歌部分を分類した翻訳形態の出現数は下記の通りであった。

歌部分字幕で行った分類まとめ

- 直訳 64 (58.1%)
- 意識 18 (16.3%)
 - 未分類：13 表現一般化：1 具体化：1 同義語統合：1 上位語化：1
 - 比喩：1
- 省略 23 (20.9%)
- 追加 5 (4.5%)
 - 未分類：3 文意補完：1 具体化：1

全 110 件 (100%)

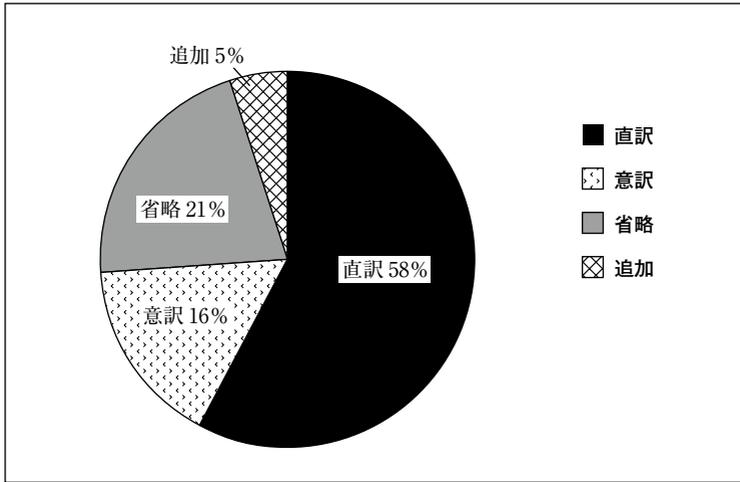


図 3. 歌部分字幕の分類

歌部分吹き替えで行った分類まとめ

- 直訳 39 (34.2%)
 - 未分類：20 表現一般化：3 言い換え：1 上位語化：2 例変更：2
- 意識 28 (24.7%)
- 省略 35 (30.7%)
- 追加 5 (4.3%)
 - 未分類 1 文整え：1 例：2 修飾語：1
- 変化 7 (6.1%)
 - 未分類：5 前後文脈対応：1 先取り：1

全 114 件 (100%)

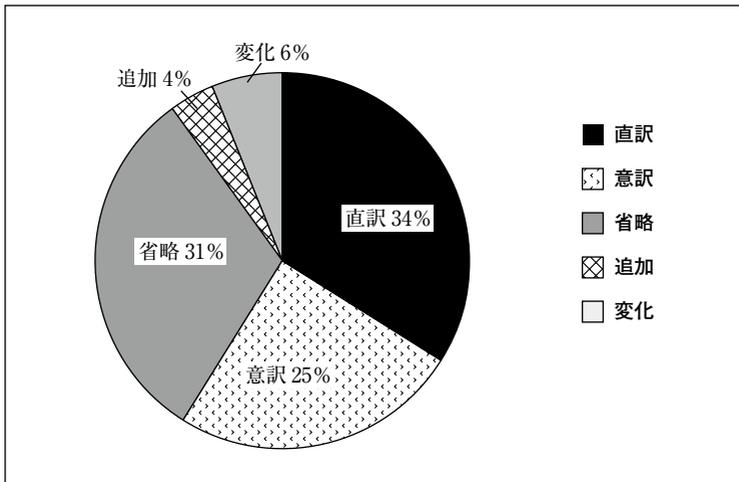


図 4. 歌部分吹き替えの分類

字幕、吹き替え共に直訳が最も多いというのは会話部分と共通している。

ただし字幕における直訳の割合が会話部分よりも大きく、省略・意識の割合との差が広がっている。逆に吹き替えでは直訳、省略、意識の割合の差が小さくなっており、歌部分字幕の翻訳形態の割合分布が会話部分吹き替えの割合分布に近く、歌部分吹き替えの翻訳形態の割合分布は会話部分字幕の割合分布に近い、という興味深い結果が現れた。歌部分の吹き替えでは曲に合うようにする為、字幕同様に文字数が制限されている。そのため、字幕の会話部分と吹き替えの歌部分とで翻訳形態の分布が類似しているのではないかと考えられる。曲によっても違うだろうが、歌詞を通常の会話文のように読み上げると、メロディーに乗せて歌ったのとは、メロディーに乗せて歌う方が長時間かかるものと思われる。こういったメロディーの長さにより、歌詞字幕においては逆に文字数に余裕ができるのではないだろうか。このことから、歌部分の字幕翻訳が、会話部分の吹き替え翻訳の形態分布に類似していることに関係しているのではないかと予想できる。

また、このことと、歌部分字幕には無かった変化が歌部分吹き替えでは7件あることから、歌部分の翻訳に関しては字幕の方が情報の減少が少なく、原文に近い翻訳になっており、吹き替えは、省略の多用、原文と関係の薄い文となっているなど、情報量の減少が字幕よりも多いことがわかる。

上でまとめた翻訳形態以外に見られた特徴としては、

- 字幕では同単語や節の繰り返しは一度に統合し、吹き替えでは原文同様に繰り返す行う。
- 吹き替えでは外来語で表現している単語を、字幕では日本語にしている、という例は複数見受けられたが、その逆は今回の調査対象には無かった。
- 吹き替えでは原文そのままの歌詞（英単語）が用いられている箇所が複数あった。
- 字幕では原文通りの比喩を翻訳して用い、吹き替えでは一般的な表現を用いる傾向がある。

といったものがあった。

5. まとめ

会話部分文字数・音節数

複数の字幕翻訳者が「字幕は文字数を制限されている」という意図の発言をしている。これに対し吹き替えの翻訳者の著作などはほとんど存在せず、吹き替えの翻訳において文字数がどうなっているのか、字幕と吹き替えの文字数に関係があるかを述べたものは見受けられなかったのだが、本稿の調査において、会話部分においての字幕の文字数：吹き替えの文字数 = 4：6 程度であるという結果が浮かび上がった。吹き替えは音声であり、字幕と同じ漢字仮名混じりの表記で文字に直す際に正確さが下がっている恐れがあるが、音節数においての調査も行い、文字数の調査とほぼ同じ割合の結果が得られたことから、字幕：吹き替え = 4：6。つまり、吹き替えの文字数は字幕の 1.5 倍程度であると結論づけることができる。

歌部分文字数・音節数

歌部分の調査では、字幕の方が文字数が多いもの、吹き替えの方が文字数が多いもの双方が存在し、全体的に見るとその割合は字幕：吹き替え = 5：5 程度であるという結果になった。これは字幕の文字数が増えたのではなく、メロディーに合わせる必要のある吹き替えにおいて文字数が制限されているからだということが推測される。

また、上記のように文字数の比較では数に大きな差がみられなかった歌部分の比較であるが、音節数で比較すると吹き替えの方が原文の音節数に近い、という結果が現れた。このことから、吹き替えでは原曲と同じメロディーに乗せて歌うことの

できる翻訳とする為に、音節数に制約があるということがわかる。

会話部分の意味内容

会話部分の意味内容の増減に関しては字幕の方が減少の度合いが強いという結果であった。会話部分の文字数でみたように字幕の方が吹き替えよりも文字数が少ない為、この結果は当然と言える。とはいえ字幕でもストーリー進行の理解に不可欠な要素まで省略されているようなことは見受けられず、表現や細かい情報は変化・減少しても、要点を上手くまとめた文となっていることを感じた。

歌部分の意味内容

歌部分に関しては会話部分とは逆に吹き替えの方に多く省略・変化が生じており、正確さや情報量は吹き替えの方が少ないという結論となった。

メロディーに乗せられる翻訳にしなければならぬ吹き替えでは会話部分のように文字数を増やすことができず、メロディーに配慮しなくて良い字幕ではむしろ歌が会話よりも長い時間をかけて歌詞が紡がれるという特徴から文字数に余裕ができる、ということが上記の一因になっていると考えられる。

6. 終わりに

字幕と吹き替えではそれぞれの性質上、かかる制約が違うために翻訳後の台詞が違うのは当然と言える。

本稿において、会話部分では字幕の方が情報量は減少していて、逆に歌部分では吹き替えの方が情報量が少ない、と結論づけたように、場面によってもどちらが情報量が少ないのかは大きく異なっている。また、単に“省略”が多いからといってそれがわかり辛い翻訳かというところではなく、必要な要点を残し、観客が作品を理解しやすいように翻訳を行っているのだということを随所に何うことができ、単純に優劣をつけて良いものではないということがわかった。

ただし、外国映画を観る際、翻訳をしたものは原文そのまま観るのは作品の内容や印象が違う、という意識は持っていてもよいのではないかと感じた。

参考文献

- 太田直子 (2007) 『字幕屋は銀幕の片隅で日本語が変だと叫ぶ』 光文社
- 川上麻美 (2010) 「映画字幕・吹き替えにおける話し言葉の研究」『東京女子大学卒業論文』 東京女子大学
- 金田一春彦 (1967) 『日本語音韻の研究』 東京堂出版
- 窪蘭晴夫・本間猛 (2010) 『英語学モノグラフシリーズ 15 音節とモーラ』 研究社
- 小林敏彦 (2000) 「洋画の字幕翻訳の特徴とその類型」『小樽商科大学 人文研究 100』 小樽商科大学
- 清水俊二 (1992) 『映画字幕は翻訳ではない』 早川書房
- 戸田奈津子 (1997) 『字幕の中に人生』 白水社
- 戸田奈津子 (2009) 『字幕の花園』 集英社
- 福光潤 (2007) 『翻訳者はウソをつく!』 青春出版社
- 古川尚子 (2008) 「字幕映画に見るその工夫と英語学習への利用」『目白大学 人文学研究 第4号』 目白大学

(やなせ みき 2012 年日文卒)

